

東日本大震災メモリアルシンポジウム 2024 「“誰一人取り残さない”インクルーシブ防災」を開催しました（2024/3/9）

テーマ：東日本大震災、インクルーシブ防災、IRIDeS オープンフォーラム

会場：仙台国際センター展示棟

URL：https://irides.tohoku.ac.jp/event/annual_symposium/houkokukai/memorial2024.html

令和6年3月9日（土）、仙台国際センター展示棟で開催された「仙台防災未来フォーラム 2024」の会場内において、「東日本大震災メモリアルシンポジウム 2024『“誰一人取り残さない”インクルーシブ防災』」（主催：災害科学国際研究所）を開催しました。本シンポジウムのテーマである“誰一人取り残さない”防災（インクルーシブ防災）とは、「社会の人たち全員のための防災」で、「仙台防災枠組」「持続可能な開発目標 SDGs」の重要なコンセプトになっています。すべての人には配慮すべき事情がある一方で、東日本大震災の障害者の死亡率（災害関連死含む）は一般的な死亡率の約2倍に上っていたことから、災害時に誰一人取り残さないようにするために、まずは最も脆弱性の高い人々の防災を考えることが重要です。

シンポジウムでは専門分野の異なる4人の教員から、インクルーシブ防災に関する取り組みや先端的なアイデア、実践活動に関する研究発表がされました。パネルディスカッションでは、さまざまな立場で防災にかかわってきたパネリストをお呼びし、仙台市内在住の架空の医療的ケア者をモデルケースに、その方のニーズとしての在宅避難を実現するための現在の課題や解決の方向性について話し合いました。100名以上の方々にご来場いただき、大変盛況となりました。

これに加えて、本シンポジウムに続いて主催した「令和6年能登半島地震災害復興支援シンポジウム」、「災害レジリエンス共創センターシンポジウム」、「イオン防災環境都市創生共同研究部門シンポジウム 2024」の3つのシンポジウムやフォーラム会場内のポスター展示において、当研究所の最新の活動についてご紹介しました。

本シンポジウムの内容や登壇者は次の通りです。

- 挨拶 栗山 進一 所長
- 発表 郡 和子 仙台市長
- 研究発表
 - ・ 齋藤 玲 助教（認知科学研究分野）、他
「防災モビリティ学の提案：モビリティから考える誰一人取り残さない防災」
 - ・ 野村 怜佳 助教（計算安全工学研究分野）、他
「インクルーシブ防災と数値シミュレーション」
 - ・ 永見 光三 特任教授（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス・グリーン未来創造機構）
「包摂性に配慮した Build Back Better の実践的手法ーネパール地震住宅再建過程の調査分析結果から」
 - ・ 朴 慧晶 助教（災害医療情報学分野）、他
「誰一人取り残さない防災に向けて：医療的ケア児・者およびその家族との地域防災コミュニケーションの必要性」

（次頁へつづく）

■ パネルディスカッション

「個別避難計画の実効性を高めるためのマルチステークホルダーによる協働
 ～医療的ケア者のケーススタディ～」

パネリスト：

【民生委員】大友 まり子（長町南部地区民生委員児童委員協議会・会長）

【SBL】大内 幸子（高砂地区町内会連合会・仙台市地域防災リーダー）

【町内会長】今野 均（片平地区連合町内会・会長）

【保健師】只埜 弓美（宮城野区障害高齢課・課長）

【研究者】朴 慧晶

【大学生】村上 真綺（宮城教育大学教育学部特別支援教育教員養成課程・3年）

進行：

佐藤 健（防災教育実践学分野）

■ 挨拶 小野 裕一 副所長

総合司会：中鉢 奈津子 特任准教授（広報室）



郡和子仙台市長による挨拶



発表の様子（朴助教）



パネルディスカッションの様子



会場の様子

文責：佐藤 健（防災教育実践学分野）
 野村怜佳（計算安全工学研究分野）